

Small Talk台本②（第6時・第7時のはじめ5分）

進め方（文科省の型）：帯活動として2時間に1回。5年は先生の話聞くことを中心に、相手を替えて1～2分×2回。1回目のあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく**本当の気持ち・本当の出来事**を話す。

話題1 先生の案内を、止めてみよう（第6時）

板書：Go straight. Turn right [left]. → Stop! No, turn left!

T Hello! Look at the map. Put your finger on START.

こんにちは！地図を見て。指をSTARTに置いてね。

T Go straight. Turn right. Stop! You can see it on your left.

まっすぐ行って、右に曲がって、ストップ。左に見えるよ。

T One more time. Go straight. Turn left...

（わざと反対を言う）もう一回。まっすぐ行って、左に曲がって...

S Stop! / No! Turn right!

（「ちがう！」が英語で出たら大成功。日本語でも手でもよい）

T Oh, sorry! Turn right. Thank you for stopping me!

あっ、ごめん！右だね。止めてくれてありがとう！

つまった子への助け舟：この5分の仕掛けは「先生がわざとまちがえる」こと。子どもは、正しく案内するより先に〈ちがうと言う〉練習がいる。Stop! はこの単元の正式なことば——止めた子をその場で拍手でほめると、本番①でStop! が一気に増える。

話題2 学校のまわりの、わたしのおすすめ（第7時）

板書：What do you have around our school? We have ～. My favorite place is ～.

T What do you have around our school? Well... we have a park!

この学校の周りには何がある？ えーと...公園があるね！

T My favorite place is the park. I like the big tree.

先生のお気に入り公園。大きな木が好きなんだ。

T (ここで だまって 3秒 待つ)

（何も言わずに待つ。手が挙がるまでの3秒が今日の主役）

S We have a convenience store! / My favorite place is the library.

（1つ言えれば十分。文でなく場所の名前だけでもOK）

T Nice! Next time is the test. I ask you this question, too.

いいね！次の時間はテスト。この質問もするからね。

つまった子への助け舟：第8時のテストの最後の質問を、そのまま予告してしまう。「知らないことを聞かれる」不安が消えるだけで、テストの1分の中身が変わる。答えは1つでよいと言い切ること。

中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

1回目のあとに全体で：「学校のまわりにあるもの、せーの！」→ 出たものを黒板に英語で3つだけ書き足す（先生が英語にして返す）。書き足したものは第8時のテストの日まで消さない——ここに1つでも自分の言った場所があると、テストで黙る子がいなくなる。

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello! / How are you?
くり返す	Soccer? Me, too!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow! / Really? / Good!
たしかめる	Pardon? / One more time, please.
さらに質問	How about you? / Why?
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・5年のSmall Talkは先生の話聞くことが中心。話題1で伸ばすのは先生の英語ではなく、子どもが「止める」経験の回数
- ・わざとまちがえるのは先生の側だけ。子どもの案内をまちがい探しの材料にしない（安心して案内できなくなる）
- ・話題2は「町」でなく「学校のまわり」でそろえる。町の大きさの差が話題に出ないので、引っ越してきたばかりの子も同じ土俵に立てる

